

令和元年度第2回清水町子ども・子育て支援会議
【議事録】

日時 令和2年11月21日(木)19時00分～20時30分
場所 清水町保健福祉センター 2階 会議室

■ 出席者

委員 中島啓治 土屋博敬(欠) 中林 豪 猿橋雅昭 根田朋代 野田千秋
高井正樹 清水 弘 高金由美子 石井照江
庶務 逢坂子育て支援課長 渋谷補佐 寺岡補佐 岡田児童保育係長
説明 (株)ぎょうせい神楽坂分室 小林主任研究員 道東担当：松山
傍聴 0人

1 開 会 〈逢坂〉

皆さんこんばんは。定刻の時間となりましたので、第2回の子ども・子育て支援会議を開催したいと思います。本日は土屋委員が欠席する連絡をいただいています。また、第1期の支援計画及び第2期計画の説明員として株式会社ぎょうせいから松山さんと小林さんがみえております。後ほどニーズ調査等の説明をいただきたいと考えております。

なお、この会議につきましては、議事録等を町ホームページ等で公表させていただきます。また、まちづくり情報コーナーにおいて、お名前を載せた状態でご意見を公表させていただきますので、ご了承くださいませようお願い申し上げます。

3 出席者紹介

出席者紹介

4 会長あいさつ

(高井会長) 改めまして、清水小学校の高井でございます。課長からもありましたが非常に寒い中、更にインフルエンザが猛威を振っている中でお集まりいただきありがとうございます。1回目の会議が7月に行われてそれ以来の会議となります。その間前回会議で説明があったニーズ調査が行われ集計が出されたことが今回の中心になるのではないかと思います。議事は4つあります。新保育施設の工事が本格的に始まり、子育て支援計画の調査に関しての協議もありますので忌憚のない意見をお願いします。

(逢坂) 議事進行については会長からお願いします。

7 議 事 〈高井〉

(1) 第1期清水町子ども・子育て支援事業計画の進捗について 資料1

(渋谷) 資料1(第1期計画進捗状況)に基づき説明

園児の数などは想定していた減少数より低くなっていない

無償化の影響もあり預け先の保育園等での考え方の修正は必要

都市部などで問題になっているような待機児童については清水町では問題になっていない

【質疑】

(会長) 質問等があればお願いします

(石井) 今後の病児保育等のニーズ調査等をアンケートから受けて検討というのはどういう人たちを巻き込んで行っていくのか。検討を続けていくのが第2期にどうやって盛り込まれていくのか。

(渋谷) 病児保育についてはアンケート結果を見ながら考えていくので皆さんからの意見を聞いて作っていけるものと考えている。

現実として周りの環境の話を知ると看護師の配置やファミリーサポートへ預ける等の話はあるが、病気の子どもをファミサポの登録者へ本当に預けて大丈夫なのかとか、怪我をした子どもを親の代わりに病院へ連れて行くことはできるかもしれないが、高熱を出した子どものケアを親の代わりにできるのかなど、子育て支援課の中だけでは解決できない問題ではないかと思っている。

病院の空き室を借りる等の考えはあるが、財政的な問題もあるので常に話題には出ているが、アンケートにも意見があるように来年度以降前向きに準備が必要であるものと考えている。この場でやりますとは言えないので前向きに検討したい。

(石井) 子育て支援課が音頭をとって回りの調整を行うということか。

(渋谷) 保健福祉課も隣にありアドバイスを聞きながら、ニーズに応えたいという考えを持っている。

(中林) 4ページに書いてある御影保育所をこども園に直してもらいたい。

(渋谷) 平成27年度に立てた事業計画なのでここは直していない。

(中林) 11ページにある虐待防止についてだが、この対策としての取組みに対しての計画案がないようだがどう行っていくのか。

(寺岡) 通報の義務ができて法律も整備されている。保育所や小中学校から情報をもらい、集約して対応することを行っている。一般からも電話189番を通じて躊躇なくダイヤルできるようになり、意識も高まってきている。

(中林) ここでのことは家庭でのことなのか。

(寺岡) 家庭だけでなく保育所では着替えのときの体の異常や、送り迎え時の様子などをみて保育所や幼稚園からの通報も受けるようになっている。

(中林) 難しい問題だがたとえ田舎でも怖い印象がある。

(会長) 具体的な取組みの説明があったと思う。

(石井) 連携をとっているから件数も増えているという認識ですね。

(会長) はい。そのほかはどうですか。

(石井) 9ページにある多様な主体が参入することを促進するための事業とあるが他の企業が入ってきて町と一緒にいうようなイメージか。

(小林研究員) この事業に対しては町外の事業者が清水町で何か子育ての事業をやりたいというときの導入支援をすることが一つと、もう一つは認定こども園化するときに特別な支援が必要なお子さんに対しての支援施策を使えるようにというのがこの事業になっている。実施状況ではこれを使っているものは清水町にはないので事業としては行っているが応募があれば実施するような事業となっている。町外のどこかの事業体が清水町で実施する場合ということがあれば必要な事業になっている。

(石井) 認定こども園という話が出たが、子育て支援課に再確認だが、新しい施設が建ち、保育所が入ることになっているが今のところのスケジュールとしては何年後に幼稚園と一緒にするのか。

(課長) 特にいつからとは決めていない。幼稚園もお子さんが減ってきて間もなく30人を切る様子もある。運営が難しくなったときにこども園化を考えなければならないと思っている。幼稚園も人を増やしたいと考えており、今までは3才児からしか入園できなかったが、今年からは満3才になった翌月から入園できるようにしている。現在3人入園している。

(石井) 当面はこども園にというよりも、それぞれの施設として運営していく努力をしているということか。

(課長) ニーズは減ってきているが幼稚園がいいという保護者も多くいる。その辺も考えて無くしたくない思いもある。子どもの数を見ながら考えていきたい。

(会長) 今後の幼稚園の状況を見ながら進めていくということですね。

(中島) 新しい保育所を建てるにあたり将来的に認定こども園に対応できる建物にすると聞いていたが年数は区切らないが将来的にこども園を目指すという話を聞いた記憶があるが進めることが後退したということか。

(課長) 以前からいずれは幼稚園児が減ってくることが考えられているので将来はこども園ということで進めている。最初からその計画で進めている。施設は将来の定員に余裕を持った形で建てている。

(会長) 期限を切ってはいないということですね。

続いて二つ目の議事に入りたいと思います。第2期のこども計画に係るニーズ調査の集計結果についてお願いします。

(渋谷) この説明についてはぎょうせい様からお願いしたいと思います。

(2) 第2期清水町子ども・子育て支援計画に係るニーズ調査の集計結果について

(小林) 株式会社ぎょうせいで主任研究員をしている小林です。現在清水町か

らアンケートの集計と分析、計画策定までの委託を受けてお手伝いをさせてもらっています。第1期計画にも携わらせてもらっているので経験を活かして第2期についても取り組んでいきます。

資料2（第2期清水町子ども・子育て支援計画に係るニーズ調査の集計結果について）に基づいて説明

○テーマに沿ったアンケートの回答傾向

テーマ1 アンケート結果から見た教育・保育の需用

- ・今後の教育・保育の需要量を推察し、見込み量と確保策の検討につなげる。

見込み量を算出する際の希望値の参考値として活用

テーマ2 孤立や疎遠状況の推察（社会参加・地域交流）

- ・子育て支援ネットワークの構築と地域共生社会への道筋につなげる。孤立している保護者がいるかどうか推測して、今後の取組みにつなげていく。

テーマ3 アンケート結果から見る子育て支援の満足度

- ・計画、施策の成果（アウトカム）ととらえて評価し、今後の取組み検討につなげる。

計画のPDCAを回していくことへの指針につなげる

テーマ4 子育ての相談先・相談相手

- ・相談先や相談相手の傾向を把握し、情報提供の手段や方法、今後の取組検討につなげる

利用者支援の今後の方向性を探る指針につなげる

【質疑】

（会長）今回の調査結果を踏まえて第2期の計画の策定になるが、多くの資料がありますが、事前に目を通してあるので区切らずに全体を通して皆さんからの意見をいただきたいと思う。

（石井）放課後子どもクラブの関係ですが、アンケート結果からみると数字が多く把握できないが、現在利用している方は親が就労しているのが一番の理由で利用している方はできれば高学年まで利用したいというニーズがある。利用していない方は利用する必要が無いということで今後も利用しようとは考えていないと結果に書かれている。親の就労によって放課後の子どもの過ごし方については既存のものを利用するかどうかという考えでよいのか。アンケート結果からそういう前提を得て他にも既存以外にも必要だという解釈でよいのか。

（小林研究員）お見込みのとおりです。今回の第2期から放課後児童クラブ等に関しては今までは低学年・高学年という二つの大きな区分になっていたが、今回からは1～6年まで各段階に分けての見込み量を決めてどう手当てしていくかと中味が変わっている。より適切にという国の方針で女性の働き方が増えていくことが見えているのでそれに対応する形で

小学生についても預けたい方が増えると思う一方でアンケート結果から見ると低学年のうちには預けたいが高学年になると放課後児童クラブもあるがその他のものも利用したいという傾向がある。ニーズは各家庭によって違ったりするのでそういったところを見て計画を策定する必要がある。そしてプラスアルファでアンケートの数値化という国に決められているところがあり、ワークシートを用いて数値化する必要がある。また、実態の利用状況の推察をした中で今後の検討となる。委員の指摘を踏まえた中でニーズや利用者の考えを踏まえた中で事業をつくり、検討する価値はあると思う。現状ではそこまでは行っていないので状況の把握に努めているところです。

(会長) 今回のニーズ調査が全てではなく一つの計画を作るための経過であり全てをまとめて計画を作るということですね。

(小林研究員) 加味した上で計画を立てます。

(会長) 18ページの保護者のニーズ調査で保育所を増やして欲しいとあるが数値的には6.1パーセントだがここはどう読み取ったらよいのか。

(小林研究員) ここで聞いているのは昔そういう思いもあったかと聞いているので自分が昔子育てをしていた方が当時を思って書いたものや、兄弟がいる家庭でお子さんに保育所があったらよいと思っていた保護者の意見ではないか。そこでニーズがあるものだと見ている。大きな数字ではないので傾向があるということだけなので、それよりも現在保育を行う保護者のところで見ることが必要だと思う。小学生の子どもを持つ保護者のニーズは過去を掘り返して聞くようなものになっている。ニーズ調査で就学前と少し違うのは小学生の保護者の場合発達支援センターがあるが保護者がセンターを利用している家庭かもしれない。

(中林) 9ページの中での経済的な理由により事業を利用できないというのは保育料は無償化されている中で更に経済的な理由というのは父母会費とかそういうものなのか。

(小林研究員) 無償化が始まる前にアンケートをとっているなのでその保育料だと思う。

(中島) 21ページの相談できる相手のところですが、小学生もそうだが民生委員児童委員は相談先として選ばれていないとなっている。

(根田) 相談はあるにはあるが、恐らく自分のことについては民生委員よりも保育所の先生として見られていると思う。

(小林研究員) 補足ですが問12-1で聞いているのは気軽に相談しているところはどこかと聞いています。民生委員や児童委員が関わっているケースはあるが普段の少しのことを相談している先はどこかとなるとやはり友人知人や祖父母等の親族や先生などの一般的な回答になっている。一つ考えなければならないのは相談が行政などの関係している機関に情報が降りてきていない可能性があるという懸念があります。今回多か

った例としては無償化になったことで皆さんネット等で検索をして各自治体に問い合わせがとても多くあったと聞いています。情報というものにより見えないものが見えていないところで渦巻いているかもしれないことが考えられ、今後情報をどういう風に伝えていくかというところで通常は情報提供の対象者は保護者が対象になるが、祖父母や知人などの全く情報を共有していないところへの状況提供によって問題の解決につながる場合も考えられるかもしれない。ここでの設問は情報のあり方についての優先順位の考え方の問いにもなっている。しかし未だそこまでは意識があがっていないのではないかと思う。そういう分析もしている。

(石井) 放課後児童クラブについて現状を把握してこれからどうするかという分析だが、第1期事業の説明の中での放課後子ども総合プランに教育委員会と福祉局が情報の共有を行い計画的に取り組むとあるがそう認識してよいか。

(渋谷) 第1期中で中止や廃止ということではなくて続けていくものは第2期の中でも踏襲する考え方ではある。

(小林研究員) 次の資料説明にそこが出てくるのでその時に説明をさせていただきます。

(渋谷) 次に第2期の骨子についての枠組みについての説明をします。

(小林研究員) 資料2-1 (子ども・子育て支援事業計画骨子案作成に向けた説明資料) を説明

本事業計画については鉄板計画ではなく需給状況等を見て見直しを行うことができる計画となっている。

○子ども・子育て家庭の状況及び需用の把握

○アンケート調査と把握

○子ども・子育て支援事業計画「量の見込み・確保方策」

計画的に教育と保育の整備(5カ年の途中での需給変化に応じて調整可)

○子どものための教育・保育の需給(認定こども園等)

○子育て支援を充実させる事業

法廷13事業+自治体の任意事業等

- ・産後の休業及び育児休業後における特定教育・保育の円滑な利用
 - ・子どもに関する専門的な知識及び技術を要する北海道等との連携
 - ・ワークライフバランスのための必要な雇用環境の整備に関する施策
- 新・放課後子ども総合プラン

第2期事業計画の作成に当たっての留意事項

- (1) 幼児教育アドバイザーの配置、確保及び幼児教育センターの体制整備
- (2) 幼稚園の利用希望及び保育を必要とする者の預かり保育の利用希望の対応
- (3) 外国につながる幼児への支援・配慮

次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画策定指針の改正

追加項目

新・放課後子ども総合プラン（放課後の取組みを一層強化）

子育て世代包括支援センターや産後ケア、新生児聴覚検査等に関する記述追加

登下校防犯プラン（未就学児及び高齢運転者の交通安全緊急対策）

住生活基本計画（良質な住宅の確保）

【質疑】

（会長）ここまでの中で質問があればお願いします。

（石井）学校運営のコミュニティースクールの中でも学校や地域の中でのこどもに関わっての検討が進められているが、同じ子どもを対象としているここでの計画との関わりはどうなっているのか。

（小林研究員）教育部局と福祉部局との連携はそれぞれ対応している状況だが、放課後の居場所をどう作るかという子どもの過ごし方についてが子ども子育て支援事業計画の最終的な目標となっているテーマである。目標は広く大きくしておき、色々な道筋があってよいと思う。そういう大きな形の計画にしておかなければそれぞれがバラバラになってしまうので、連携というところをつないで行かなければならないものだと考えている。その連携が清水町でのこれまでの課題であるがこれからの課題でもある。コミュニティースクール以外にもフリースクール等の色々なものが存在してきているのでその住み分けが難しくなってきた。選択肢としてはたくさんあった方がよいという一方で放課後児童クラブも自主運営のところはできなくなってきたところもある。いったん公立に戻そうということも出てきている。清水町に合った形もあるはずなのでそこを探りながら今後を考えていくことが必要。放課後子どもプランでは小学校の空き教室を使いましょうとあるが、空き教室がなかなか無い現実もあったりする。30年ほど前の空き教室が出始めた頃ならよかったのかもしれないが今は他のものに使ったり、学校の統廃合といわれているところでは触れづらいところもある。教育基本計画での青少年育成と地域との計画の中では今回の事業計画と被ってくる分野でもある。そういったところは調和を図りながら実施することが必要ではないかと思う。

（会長）石井さんは現場にいるのでとても感じていると思う。縦割りの行政部分がこうなっているところもあり、清水町はどうやっていくかということを経済委員会と福祉との連携を打ち出していかなければいつまでもそれぞれにということが続いていくのかもしれない。今回第2期に向けてより一層連携を図るというのか大事だと思われます。

（中林）清水町の中でも色々な計画があるが、計画から発展していかないことが一番悲しいところだと思う。アンケートを見て色々感じるところもあるがせっかくの機会なので深いところまで話をすることが必要だと思う。現場から見ると役場の中の計画を見ると同じようなことをどこでもやっているように見えることがある。子育てに特化した色々な関わりを集約した清水町独自の支援会議がで

できればよいと思う。次期計画の数字については作り上げていかなければならぬものであるが、アンケートで出た意見については取り組んでもらいたいと思う。

(会長) その他はどうでしょうか。

(小林研究員) 続いて次の説明に移ります。

資料2-2 子ども・子育て支援事業計画骨子(案)

資料2-3 教育・保育、地域子ども子育て支援事業の利用実績

アンケート結果と各事業の利用者数を比較検討しながら見込み量を検討している。委員との考えを共有するための資料。

【質疑】なし

(3) 新保育施設の工事進捗状況について

(渋谷) 写真資料を持って工事進捗状況の説明

【質疑】

(その他)

(渋谷) 新しい保育所の名称の公募について実施している。

(中島) 名前の募集について今までそういう話が無くていたが、話の出所はどうなっているのか。

(渋谷) 元々新施設の名前はどうかという話があり、一部の意見だけで決めてよいものかどうかというものがあつた。何もなく清水保育所でもよいと思う。ただ保護者との雑談の中でも公募して決めると愛着もでてくることがあるのでという話も聞こえた。決めるときに子育て支援課の中だけで決めてよいのか、公募をしても多数決だけで決めることがよいのかどうかわからなかったので今回提案をしている。雑に決めることもできなく、担当者が決めるわけにもいかないと思っている。できれば選考していただきたい。

(会長) 時期を見計らって決めてください。

(渋谷) はい。

(会長) 全体を通して意見等がありますか。

無ければ議事については終了します。

(課長) 長時間ありがとうございました。保育所も大分出来上がってきており一度中を見ていただく機会があればと思っています。来年3月には完成しますので引き続きよろしく申し上げます。ぎょうせいの皆さんも今日はありがとうございました。これもちまして会議を終了いたします。